

ヨハネによる福音書 16章16節～24節

杜甫の「春望」(しゅんぼう)という漢詩、「国破れて山河あり、城春にして草木深し、」があります。この失望が詩人杜甫を産みだしたのです。杜甫という人間が、たとえ科擧の試験に合格して身分の高い役人になることが出来たとしても、彼の名前も残らなかったし、彼の人生から影響を受ける人もなかったでしょう。しかし、夢破れて、放浪の詩人になることによって、中国文学史上最高の詩人と言われる人になりました。

私たちも同じです。明治時代から続いた富国強兵政策が第二次世界大戦敗戦によって終止符を打ち、全国どこでも町と言う町は焼け野原になって、自分たちの町はこういう処にあったのかと人々の視界が開けて、平和憲法と民主主義の世の中が生まれました。私たちの憲法は、2300万人の命の犠牲の上に生まれてきた平和憲法であり、戦争によって大事なものを失った人々がみんなで願った憲法であることを見落としてはなりません。旧約聖書は、イスラエルという国が滅亡し、人々がバビロニアに奴隷として連れて行かれて生まれました。

今朝の聖書の箇所「しばらくすると」という言葉が7回出てきます。イエス様は十字架の死の前に「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる」と言われました。そして、20節で「あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」と言われました。21節に「自分の時が来たからである」と書かれていました。「自分の時」とは、他の人に代わってもらえない時ということです。大事な赤ちゃんを産むために、お母さんは誰にも代わってもらえない苦しみに耐えます。でも、その次、に可愛い赤ちゃんが生まれてきて、大きな喜びが与えられるのです。

私達にも、個人的にも社会的にも苦しみがあります。頑張っても報われないこともあり、成ろうとしても成れないことがあります、大事にしていたものが奪われることがあります。失敗したり、病気になったり、トラブルに巻き込まれたり、いつまでも元気で自由でいたいのに年をとって不自由なところが増えてきたり、望みもしないのに死ぬ時がやって来ます。それらの苦しみや悲しみは、人に替わってもらえない苦しみです。悲しみや苦しきは出来ることなら避けて通りたいですが、イエス様は「その悲しみや苦しみが喜びに変わる」と言われるのですから、大変なことから目をそらすのではなく、イエス様の助けを頂きながら自分が担わなければならない苦しみや悲しみを引き受けて生きて行きましょう。